

九条の樹 60

2016年3月



東久留米「九条の会」ニュース

発行：東久留米「九条の会」

代表者 古田足日・連絡先 鈴木 Tel. 042-473-9489

<http://members3.jcom.home.ne.jp/higashikurume9/>

メール：higashikurume9@jcom.home.ne.jp

日本国憲法 第9条

- ①日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
- ②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

五野党合意と憲法

戦争法（安保関連法）が强行採

決されて丁度5か月目の2月19日の国会前、五野党が戦争法廃止法案を共同提出しました。そして戦争法廃止に向けて国政選挙で現与党及びその補完勢力を少数に追い込むなど4項目で合意したとの報告がスピーカーから聞こえてきました。歴史が大きく動いたと感じた瞬間でした。憲法を前提とした政治の行われる日本を取り戻す戦いが始まる。身の引き締まる思いで、こどもも報告する野党代表のスピーチを聞きました。

憲法9条を守る戦いは平和な日本を維持する最も重要な私たちの課題、だから全国に九条の会が出来るのだと思います。

ところで、最近9条を守れというだけでは日本国民は、命とくらしを守れない事態が広がっています。

第一次安倍内閣の発足した

2006年12月、国民のための教育から国家のための人づくりへと教育基本法を改悪しました。そして民主党政権から引き継いだ社会保障と税の一体改革を、消費税の増税と社会保障切り捨ての一体改革へと大きく舵を切ってきました。その結果、介護、医療、年金等における負担増と給付の引き下げ、住宅扶助を含む生活保護受給基準の切り下げ、高齢者加算の廃止、冬季加算の引き下げとなりました。障害者権利条約の批准はした（2013年12月）けれども、関連法制度は権利条約とは程遠い状態のままとなっています。

社会保障制度における負担増・給付の切り下げと生活保護の受給基準切り下げを同時に行ったのは、安倍内閣が初めてではないかと思えます。特に最低賃金の引き

上げが強く求められているとき、その基準となっている生活保護基準を切り下げることがまさに生存権（憲法25条）を平気で脅かす政治そのものです。

戦後71年、最悪の内閣であり、まさに打倒しなければならぬ内閣です。

戦争法（安保関連法）廃止と立憲主義を取り戻す戦いは、今や国民の多数の願いとなってきたことに間違いありません。暮らしを守る運動は憲法を守る運動と両輪で進めて行くことで明日が見えてくるといえましょう。

（滝山・井口信治）



東久留米 「九条の会」 新年交流会

1月23日、スペース105で新年交流会が開催されました。

塚田勲さんのミニ講演と、今取り組んでいる「戦争法廃止2000万人統一署名」について、各地域九条の会から、署名の集め方などについての報告や情報交換など行いました。

2月19日、野党5党が戦争法廃止法案を協同提出しました。署名の達成で、こうした動きを後押ししていきます。署名は4月25日が締め切りです。

●ミニ講演要旨

今私が考えること

塚田 勲

(未来をひらく歴史講座講師)

う問題になります。

ジャーナリズム

最初はジャーナリズムの問題。本を3冊紹介します。一つは「NOヘイト」という本(ヘイトスピーチと排外主義に加担しない出版関係者の会編)、読むとびっくりするよ

うな本です。もう一つは「ジャーナリストはなぜ戦場へ行くのか」(集英社新書)、後藤さんが殺害されたことから書かれたものです。もう一つは布施祐仁著「経済的徴兵制」(集英社新書)という本です。

ヘイトスピーチとか排外主義とかの問題を欧米の姿を見ていると思いますが、今後日本でも、もっと大きな形でやってくる危険があります。本屋に行く

じように並んでいるかという点、そんなことはないのです。

後藤さんが殺されて、その後シリアに渡ろうとしたカメラマンが強制的にパスポートを取り上げられたのです。政府が政府の都合でこの人はいいけどこの人はダメ、というようになったということにジャーナリストは

とても危機感を持っています。戦争というのはウソと秘密で作られていくわけですから、ジャーナリストが戦場に行つて、本

当の姿を報道しない限り国民は戦争の本当の姿はわからない。今、日本の安倍内閣は、後藤さんが殺されたとき、「あんな危ないところへ行つて」という感じでしょう。オバマは何と言つたか、後藤さんをほめています。この本でも、外国の情報をも

で書いてきた人ですがこの本では自衛隊が今、何をしようとしているのかを丁寧

に追つて書いています。日本のジャーナリストはベトナム戦争以来ジャーナリストとしての役割を果たしてきました。満州事変の時と比べてみま

し。事変は関東軍が自ら仕掛けたものだということは何人もジャーナリストは知っていました。もし事実を報道していたらどうなつたでしょうか。日本

軍は一気に満州全体を占領することなどできなかったはず。日本の新聞は鉄道爆破を中国軍のせいにした報道を一齐に行つてしまいました。新聞報道に乗つかつて、つまり「世論」をバックに満州侵略がすすめられたというその反省から、ベトナム戦争の時日本の記者が産経から、日経までいっぱい行つていました。それが危なくなつてきたという話の一つです。

市民運動、歴史が変わり始めた

二つ目の市民運動の問題で

す。「立憲主義」とか「集団的自衛権」とかいう難しい言葉が盛んに使われるようになりまして。日本の立憲主義というのは平和ということと結びついていると思います。自民党の憲法改正案は民主主義を敵視しています。年表風にみると昨年5月3日に横浜の集会が、大きな運動のスタートでした。

私個人のことでは、7月24日に日比谷で集会がありました。反原発の人とか、シールズ、全労連などの人が並んでいましたが、学生が語っていました。「おじいさんが戦争はダメだと言っていたことが、今自分の問題としてわかってきた。だから参加している」と、大勢の人の前で話すのにびっくりしました。あれ、と思いました。その数日後、「なんだか歴史が動き始めた気がする」とある学習会で話をしました。その後、本当にそのような動きが進みました。シールズの人たちの言葉は

印象的です。強行採決された後「国会前の僕の目に涙はなかった。あの夜、国会前で共有されていた感情とは間違いなく『絶望』ではなく『希望』だった」など。60年安保のときと違うなあ、と思いました。民主主義、立憲主義のことをうんと学んだのだと思います。

安保法制が強行された後、今年に入つて1月5日、新宿駅西口で「市民連合」の集会に私も行きましたが、すごい迫力のある集会でした。こういう動きが始まってきています。

歴史修正主義とは

もう一つ、歴史修正主義です。九月、菅官房長官の政府公式表明です。沖繩の人たちが「戦後に強制接収されて建設されたことが現在の普天間基地問題の原点だ」これに対して「賛同できない。日本全国悲惨な中でみなさん大変苦勞されて今日の豊かで平和で自由な国を作り上げた」。沖繩は地上戦でどれだけひどい目にあったの

かという経験を本土の人たちは持つていません。それから戦後ずっと直接占領のもとで暮らした。それを安倍内閣は一蹴した。

十月に中国が南京大虐殺の資料をユネスコ記憶遺産に申請したのに対し、日本政府がそれをやめろと言ってきました。登録された後ユネスコへの拠出金凍結まで言い出しました。中国側のユネスコに出した資料はごく普通のもので、東京裁判の判決、南京軍事法廷判決とか公になつていゝるものです。政府がユネスコに送つた専門家は歴史学者ではありません。歴史家では南京大虐殺がなかったという人はさすがにいないです。

今年十一月自民党が結党60周年なのですが、「歴史を学び未来を考える本部」をスタートさせました。明治以降の歴史、日清戦争からの歴史を、学者を呼んで勉強会をやっているそうです。中身の報道がないのでわからないのですが、どう考えても国会議員に歴史修正主義を身に

着けさせるのが目的でしょう。十二月には慰安婦問題で一応の合意がありました。河野談話では学校でこの問題を学ぶというのを入れているのに、全く逆行しています。

慰安婦も南京大虐殺もなかった、過去のものにしてしまおうという流れが一方であります。国際社会から見れば話にならないことを日本の安倍の中樞がやり始めている、というのが今の状況で、私たちの運動もそういうことを踏まえながら進める必要があるのではないのでしょうか。(文責 事務局)



戦争体験記

第二次世界大戦について

柏木隆暉
(東京・世田谷区・中学2年生)

(これは、柏木さんが、夏休みに平和学習についての課題が出され、「第2次世界大戦中の祖母の体験」の聞き書きに取り組んだものです。転載させていただきます。)

★ 題材設定の理由

祖母が小・中学生の時、第二次世界大戦中だったと知って、その時の様子を聞いてみたいと思っただけです。

★ 調査した事柄

① 一家で疎開

東京でB29というアメリカの飛行機がたくさん飛び、危なくなっただけで実家のある清瀬に引

越しました。

清瀬では、警戒警報が鳴るとすぐに防空ごうに逃げました。そのため、夜ねる時でも洋服を着ていました。

② 学校での様子

英語は「敵国語」だったため使えず、「ストライク」は「まつすぐ」、「ボール」は「はずれ」などと呼んでいました。「オルガン」は「白黒鍵盤」で、「ドレミファソラシ」は「ハニホヘトイロ」と言いかえました。体育の時間は、長刀(なぎなた)で敵を殺す方法を教わりました。

また終戦後は、先生の言った通りに教科書に書いてあることを墨でぬりつぶさなければならず、教科書を大事にしていたので、どうしてもシヨックでした。

③ 一番辛かったこと

仲の良かったクラスメートがB29の落とした爆弾で亡くなっているのを見たことです。

そのころ、自分の家の庭に防空ごうを掘っている家もあっ

て、友達は、空襲警報が鳴った夜、そこに逃げこみました。ところが、B29が焼夷弾を落とすので、防空ごうがつぶれました。朝になって掘り出されましたが、亡くなっていて、「子どもは見ると追いはらわれながら、ちらっと見えたのは、友達の土で汚れた両足でした。

★ 平和と命について

考えたこと
学んだこと

祖母から、ぼくと同じ年頃の子どもも戦争に連れて行かれたり、特攻隊に入れられたりしたことも聞きました。

また、友達が弾に当たって亡くなっているのを見るなんて、とても考えられないことでした。

ぼくは命が一番大切だと思うので、人と人が殺し合うような戦争は絶対にしてはいけないと考えました。



《平和を考える本》 二冊

『ヒトラーとナチ・ドイツ』

石田勇治 (講談社現代新書)



なぜ文明国ドイツにヒトラー独裁政権が誕生したのか。ヒトラーは、いかにして国民を惹きつけ、独裁者に上りつめたのか。なぜ、ドイツで、いつの間にか憲法は効力をなくし、議会制民主主義は葬り去られ、基本的人權も失われたのか。ドイツ社会の「ナチ化」とは何だったのか。当時の普通の人びとはどう思っていたのか。なぜ、国家による安楽死殺害やユダヤ人大虐殺「ホロコースト」は起きたのか。などの疑問に、この本は、多くの文献をもとに丹念に調べ答えている。

今の日本にも類似し、大臣の言った「ナチスドイツに学べ」の言葉に空恐ろしさを感じさせる一冊です。

(大山智子)